

公益財団法人日本バスケットボール協会
平成24年度 第9回理事会 議事録

日 時: 平成24年11月14日(水) 14:00~16:20

場 所: JBAオフィス 8F会議室

出 席: <理事>

麻生太郎会長、深津泰彦、丸尾充、梅野哲雄の各副会長、樋口隆之専務理事、伊藤信明、大神訓章、大山妙子、熊谷秀樹、坂本昌彦、佐古賢一、佐々木三男、庄司義明、鈴木秀太、高橋雅弘、田窪徹、野村俊郎、原田茂、福井晴次、堀井幹也、水谷豊、吉田長寿、吉田利治の各理事

<監事>

高原洋太郎、松岡憲四郎の各監事

<特任委員>

内山英司、小倉恭志、片山正明、西井歳晴、林直樹の各特任委員

欠 席: 品田奥義理事、山崎均監事、上島正光特任委員

議 題

- (1) 平成25年度事業方針について
- (2) 施設・用器具規格および検定審査規程の改定について
- (3) 後援名義の使用について
- (4) 大会要項について
- (5) 女子U-16日本代表について
- (6) 実業団連盟の法人格取得について

1. 定足数の報告

堀井理事より出席者数の報告があり、定款32条に基づき、理事現在数(24名)の過半数の出席数(出席:23名)を満たすため、会議成立が宣せられた。

2. 挨拶

麻生会長より開会の挨拶があった。

3. 議事

定款に基づき、議長は会長が務め、会長の指名により深津副会長が会議の進行を行った。

(1) 平成25年度事業方針について (樋口専務理事)

平成25年度事業計画および予算策定にあたっての前提として、現状の課題とそれに対する取り組みとして次の3点が示された。

- ①毎年の事業計画・予算は単年度予算で作られており、JBA2010宣言で掲げた100周年(2030年)の

目標に対して一貫性に欠けている部分もある

→オリンピックを基準とした4年単位での中長期計画とし、2013年は2016年までの4年計画の中での1年目の計画とする

②事業計画と予算上の項目が一致していないところもあり、執行管理がしにくい、見えにくい状況である

→各事業の執行時期も予め計画し、月次決算または四半期決算を行い、執行管理、PDCAを徹底する

③統括機能の不足による各部門、また各団体(都道府県、ブロック、中央等)の一貫性が足りない点もある

→それぞれの役割を認識し、発展に向けての意識の統一を図る

また、過去6年間の予算計画と正味財産に関して、2010年度から2012年度までの3年は前期繰越を充当した赤字予算で事業を行ってきたこと、今後は単年度の収入に見合った予算計画、さらには、災害発生時等の想定外の事態への対応、国際大会招致、報奨金等の積立金等も行い、中長期的に安定した活動を行うための財政基盤を強化する必要があることが説明された。

以上を踏まえ、資料に基づき、来年度の事業方針および予算作成上の考え方(単年度収支バランスの取れた予算とすること、2012年度当初予算(11億)を基準とし、全体で10%の支出削減を図りながら、強化・育成、指導者・審判養成、普及・登録推進等の重点事業に予算を充当すること)が提案され、原案通り承認された。

尚、作成スケジュールについては、12月までに原案作成、1月にヒアリングを行って2月の理事会で審議し、3月の評議員会で決議することとした。

<承認>

(2) 施設・用器具規格および検定審査規程の改定について (堀井理事)

2011年のルール改正および2012年4月の公益財団法人移行に伴い、「バスケットボール施設・用器具規格」および「バスケットボール施設・用器具検定審査規程」の改定案が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(3) 後援名義の使用について (堀井理事)

「2013国際親善女子車椅子バスケットボール大阪大会」における後援名義の使用申請について、後援名義の使用が承認された。

<承認>

(4) 大会要項について (庄司理事)

次の2大会の大会要項が提案され、原案通り承認された。

・「東日本大震災」被災地復興支援 第64回全日本大学バスケットボール選手権大会(インカレ)

・「東日本大震災」被災地復興支援 高松宮記念杯 第45回全日本実業団バスケットボール選手権大会

尚、インカレ出場枠の基準についての意見があり、今後競技会委員会が学連と協議を行うこととした。

<承認>

(5) 女子U-16日本代表について (高橋理事)

来年度開催される「第3回FIBA ASIA女子バスケットボール選手権大会」に向けた女子U-16日本代表チームのスタッフおよび候補選手20名が提案され、原案通り承認された。

<承認>

(6) **実業団連盟の法人格取得について**（堀井理事）

日本実業団連盟より、法人格（一般社団法人）取得の申請があり、原案通り承認された。

＜承認＞

4. **報告事項**

(1) **一般報告**（堀井理事）

2012年10月の諸会議等の開催実績が報告された。

(2) **総務部**（堀井理事）

資料に基づき、次の8点が報告された。

- ① 次回第10回理事会は12月12日（水）に開催し、次回以降の開始時間を13時からとすること
- ② 今年度のチーム加盟数・競技者登録数の進捗状況として競技者登録数が減少傾向にあること
- ③ 登録者向けのサービス向上施策の一環として、会報誌「TIP OFF」第2号の発行等を行うこと
- ④ ブロック別の連絡会を10月28日から12月8日まで順次開催していること
- ⑤ 10月16日に評議員選定委員会を開催し、理事会より推薦した2名（松倉氏、門川氏）が評議員に選任されたこと
- ⑥ 今後の日本スポーツマスターズにおいては、日韓交流事業を同時に実施することになったこと
- ⑦ FIBA ASIA中央理事会において、FIBA ASIA 3X3委員会の設立等が決定されたこと
- ⑧ FIBAの中央理事会において、2017年から導入される男子の新たな競技方式、日程等が決定したこと
（2014年スペインでのワールドカップ後の次大会は2019年となり、以降4年毎に開催すること。出場チームは24チームから32チームになること等）

(3) **事業戦略部**（吉田（長）理事）

資料に基づき、次の5点が報告された。

- ① 2013年度以降の日本代表サプライヤー、パートナー、オールジャパン他全国大会の協賛について営業活動を進めていること
- ② 「JBAバスケキッズキャラバン（仮称）」の正式名称が「バスケキッズフェスティバル」に決定したことおよび今年度の開催計画
- ③ 3x3の2012年シーズンの競技面、デジタル面の実績や2013年シーズンの展望についてFIBA 3x3グローバルワークショップが開催されたこと、また、FIBAとしては「3x3大会の推進＝競技人口の拡大」を第一に考えていること
- ④ 日本への招致活動を行っていた2013年FIBA ASIA女子選手権大会の開催地がタイに決定したこと
- ⑤ ウインターカップについて、広島開催により参加チーム旅費等例年よりも支出増が見込まれること

(4) **新リーグ運営本部**（丸尾副会長）

リーグ名称が未定であったBリーグについて、「National Basketball Development League（略称：NBDL）」に決定したことが報告された。

また、パナソニックの件については、年内に方向性が決定する予定であることが報告された。

(5) **競技会委員会**（庄司理事）

2013年のFIBA ASIA主催大会の開催地が決定したこと、各種全国大会の組合せ、大会結果等が資料に基づき報告された。

また、オールジャパンについて、前回大会よりもさらにテレビ放送が増え、計12試合の放送が決定したことが報告された。

(6) **審判委員会**（吉田(利)理事）

FIBA ASIAレフェリークリニックの結果、現役国際審判員17名は全員合格(更新)となり、新規受検者4名のうち3名が合格し、新たに国際審判員に認定されたことが報告された。

また、2013年度より採用されるルールを反映したルールブックの制作が進んでいること等が報告された。

(7) **男子ナショナル委員会**（佐古理事）

男子U-16日本代表チームについて、12月31日～1月8日までドイツ・チェコ遠征を行うこと、また、ジュニアエリートアカデミー参加選手のうち1名をU-16日本代表候補選手として追加招集することが報告された。

(8) **テクニカル委員会**（佐々木理事）

1月～3月に行われるブロックエンデバーの開催日程が報告された。

また、ジュニアエリートアカデミーについては、全8回中、第5回のキャンプまで終了していることが報告された。

(9) **国体委員会**（野村理事）

平成30年の開催地となる福井県で会場の正規視察を行ったことが報告された。

また、ブロック代表チーム出場枠の変更について日本体育協会と対応協議を行い、岩手国体から導入の方向で進めていることが報告された。

(10) **その他**（西井特任委員）

9月20日の理事会にて承認を受けている来シーズンのWJBLスケジュールについて、東アジア競技大会との日程の重複があることからスケジュールの変更を行うことが報告された。

また、2年間中断している日韓のチャンピオン戦について、東アジア連盟指導の下、日韓の他、中国、チャイニーズ・タイペイを含めて発展的に構築する予定であり、来年4月は韓国で行う予定であることが報告された。

以上